

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2019年4月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第603号

昨年2018年度より、関西セミナーハウス運営委員に招かれました、日本基督教団宇治教会牧師の早瀬和人です。よろしくお願いいたします。

自宅から自転車で約10数分のところに「詩人尹東柱・記憶と和解の碑」があります。天ヶ瀬ダム下流の白虹橋たもとです。(もはや日本の生活は危険が多すぎるから帰国する)と決意した尹東柱は、1943年6月頃(？)、同志社大学の学友たちと思い出作りのため宇治川へハイキングに出かけました。そこで東の間の平和を日韓の学生たちは過ごしたのです。その直後の7月、彼はハンゲルで詩作をし民族独立運動を扇動したとして、治安維持法違反容疑で逮捕されること。日本の戦争責任を受け止め平和を造り出そうとする者にとって決して忘れてはならない出来事として心に刻むため、私は定期的にこの詩碑を訪れています。昨年12月、マタイ福音書のクリスマス物語を読んでいました。東方の学者たちが救い主誕生を予告する星を発見し、エルサレムまでやって来

ました。しかし、なぜ彼らは「新しく誕生したユダヤ人の王はどこにおられますか」とヘロデ王に尋ねてしまったのだらう?と、不思議に思えてきたのです。(ヘロデに聞いたところで、「何?新しい王だ!そいつを生かしておくわけにはいかない」と彼が快く思うはずもないことぐらい分からなかったのだらうか?)

「空と風と星と夢」を大切にしたい…

関西運営委員

早瀬 和人



ん。「見つかったら知らせてくれ」とのヘロデの言葉に送り出されます。しかし神様は、そんな彼らをそのままにはしておかれませんでした。

ところで、尹東柱の詩集に「空と風と星と詩」があります。このタイトルをもじつて、ある日の礼拝で『空と風と星と夢』という説教をしました。空と天と神のもとから、風と聖霊が吹いてくる。聖霊

権力者に指示を仰いだってアカンのやで!とハラハラしつつも、もしかしたら福音書著者は、学者らの「失敗話」を記録したかったのだらうか?と思つたものです。

この学者らは、新しい王の誕生を権力者に尋ねてしまふという、無頓着でどこか権力者に対し従順な性格を持ち合わせていたのかもかもしれません。

の風に吹かれて生きる私たちは(どこを目指したら救いに通じるのだらうか)と、東方の学者らが導かれたごとくに星の導きを求めるもの。でも日常生活のただ中で私たちが多くの国民は、権力者の横暴に振り回され、無意識のうちに長いものに巻かれてしまいがちです。そんな私たちは、マタイ福音書のクリスマス物語に学びたい。幼子を拝んだ後、学者たちは「夢」をみます。(長いものに巻かれたらアカン。そこには平和はない)と告げ

る夢を。神様は東方の学者らに、夢を通して、ヘロデへの道ではなく「別の道」を選ぶことを得させてくださいました。

「天皇代替わり」の時が近づいています。知らず知らずのうちに、長いものに巻きこもうとする国家権力。そんな権力者の思う壺にはまってなるものか!そのためにも「空と風と星と夢」を大事にしなければ、と言いつ聞かせている今日この頃です。

最後に、宇治川の尹東柱記念碑に刻まれている一篇の詩を紹介いたします。

〈新しい道〉
小川を渡って森へ
峠を越えて村へ
昨日も行き 今日行く
私の道、新しい道
(中略)
私の道はいつも新しい道
今日も… 明日も…

関西セミナーハウスの様々なプログラムを通して、「新しい道」を見い出せるように、「別の道」を選択して行く力を身につけられるように、と期待しています。
(日本基督教団宇治教会牧師)

フォーラム事業						
関東フォーラム 今日の課題 I	第1回	子どもの貧困と教会の役割 子ども食堂の取り組みから」講師・大久保正禎 (王子教会牧師) 他	5月24日(金)			
	第2回	「フェイク・ニュースと情報リテラシー」講師 未定	日 時 未 定			
	第3回	「閉塞した社会と若者たちの生きづらさ」講師 未定	日 時 未 定			
今日の課題 I	全3回	「ジャーナリストから見た現代社会の状況と課題」				
	第1回	講師 菅原伸郎 (元朝日新聞記者)	7月12日(金)			
	第2回	講師 佐々木宏人 (元毎日新聞記者)	10月11日(金)			
関東フォーラム 宗教対話 I	全7回	「日本キリスト教史を読む III 昭和篇」由木康、赤岩栄、木俣敬、鈴木正久、北森嘉蔵、井上良雄、隅谷三喜男 講師 戒能信生 (千代田教会牧師)	2020年2月7日(金)			
	関東フォーラム 宗教対話 II		柏木義円公開講演会「柏木義円と親鸞」講師 市川浩史 (群馬県立女子大教授) 柏木義円研究会との共催	11月9日(土)		
		研修・セミナー・体験交流事業				
		聖書を読む講座	全10回	新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっくりと読む」II 講師 山口里子 (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)	第1回 4月9日(火) 第2回 5月14日(火) 第3回 6月11日(火) 第4回 7月9日(火) 第5回 9月10日(火) 第6回 10月8日(火) 第7回 11月12日(火) 第8回 12月10日(火) 第9回 1月14日(火) 第10回 2月4日(火)	
			話し方ワーク ショップ	全10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ (ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師 友野富美子 (経堂緑岡教会副牧師、元声優)	第1回 5月13日(月) 第2回 6月10日(月) 第3回 7月8日(月) 第4回 9月10日(月) 第5回 10月21日(月) 第6回 11月11日(月) 第7回 12月9日(月) 第8回 1月20日(月) 第9回 2月10日(月) 第10回 3月10日(月)
				神学生交流プログラム	第11回神学生交流プログラム 校長 神田健次 (関西学院大学名誉教授) 講師 未定	2020年3月14日～16日
				神学生交流プログラム・リユニオン	第1回～第10回の参加者に呼びかけて 関西セミナーハウスを会場に実施予定	日 時 未 定

III 関西セミナーハウス活動センター2019年度事業計画

複雑に錯綜する現代社会の問題と取り組むには、宗教的信仰だけでは足りない。一方において、事柄の専門家と共に学際的な理解を深め、自らの判断力を形成する必要がある。他方、究極的な土台と価値判断基準を確立するために、宗教や倫理を深く学ぶことも欠かせない。この両面から、現代日本において自立的市民を育て支援するために啓発的教養フォーラムとセミナーを提供する。同時に、地域と社会に開かれた事業として、エキシユメニカルな対話の場と機会にした。い。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、昨年度までの「宗教と戦争」を発展的に継承し、シリーズ「平和を考える」を開く。継続テーマの「エネルギーを考える」の第8回では、原発を克服する困難と、希望について考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、DV と虐待、家族について考える。

3. 修学院フォーラム「いのち」においては、たばこと人生、ゲノム編集は何を可能にするか、老いの日の生き方について考える。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、お茶と俳句を楽しみつつ聖書の言葉を味わう会、紅葉の美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、器楽演奏を楽しむもみじまつりを催す。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	<平和を考える-1> ボンヘッファアの平和倫理 講師 山崎和明 (四国学院大学名誉教授)	4月20日(土)
	第2回	<平和を考える-2> 憲法9条と自衛隊一両立か対立か 講師 松竹伸幸 (かもがわ出版編集主幹)	7月27日(土)
	第3回	<平和を考える-3> 憲法9条もアメリカも日本を守ってくれない(仮) 講師 伊勢崎賢治 (東京外国語大学大学院教授)	8月31日(土)
	第4回	エネルギーを考える第8回 なぜ原発を越えられないのか(仮) 講師 交渉中	2020年1月12日(日)～13日(月、祝)
	第5回	キリスト教と政治的課題(仮) 講師 佐藤 優 (作家、元外務主任分析官・同志社大学神学部客員教授)	2020年2月8日(土)
修学院フォーラム 福祉	第1回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 荘保共子 (特定非営利活動法人 子どもの里理事長) 京都YWCAと共催	6月29日(土)
	第2回	「福音家族」について(仮) 講師 晴佐久昌英 (カトリック上野教会・浅草教会主任司祭、「福音家族」主宰)	2020年2月22日(土)
修学院フォーラム いのち	第1回	<老いの日をいかに生き、支えるか-3> 在宅での看取り(仮) 講師 岡山容子 (おかやま在宅クリニック院長、医学博士)	6月29日(土)
	第2回	ゲノム編集の何が問題か(仮) 講師 中山潤一 (基礎生物学研究所 クロマチン制御研究部門教授) 土井健司 (関西学院大学神学部教授)	6月29日(土)
	第3回	タバコの常識・ワソほんと～禁煙はここまで変わった! 講師 高橋裕子 (医師)	日 時 未 定
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「ワークショップを体験しよう!～難民・フェアトレード」 講師: 関西セミナーハウス活動センター 開発教育研究会 共催 京都市国際交流協会	6月23日(日)
	第2回	パレスチナ問題はなぜ解決しないのか? ～その始まりとこれからを考える～ 講師 役重善洋 (パレスチナの平和を考える会)	7月20日(土)～21日(日)
	第3回	多様性が生きる社会～人権としての言語から考える～ 講師 木村護郎クリストフ (上智大学外国語学部ドイツ語学専攻教授)	9月7日(土)～8日(日)
	第4回	忘却を乗り越える～足尾銅毒問題とフクシマ 講師 菅井益郎 (渡良瀬川研究会代表)	10月26日(土)～27日(日)
	第5回	在日コリアンの歴史から学び、未来を考える(フィールドワーク予定) 講師 水野直樹 (京大名誉教授)	11月30日(土)～12月1日(日)
	第6回	「その日暮らし」の経済から考える私たちの社会 ～香港の地下経済と日本の未来～ 講師 小川さやか (立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授)	12月14日(土)～15日(日)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2019年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2019年度の実業計画に関する基本方針を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、2019年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話(はなしあい)を通じ、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。

③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。

④ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。

⑤ キリスト教精神に基づくものではあるが、未だに社会の共通認識を形成していない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の使用に供する。

② リピーター使用者の丁寧なフォローおよび新規使用者の開拓などに取り組み、使用率の向上及び収支の改善を図る。

③ 効率的な運営をはかり、公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的使用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益は原則として、公益活動への貢献、施設の補修、維持、向上等に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たっては、まずそれを可能とする財政の健全化を進める。継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2019年度事業計画

2019年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画する。

1. 「今日的課題」Ⅰとして、子どもの貧困をめぐる現実、いじめ、不登校、引き籠もりに追いやられている若者たちの現状、情報過多の時代の諸ツールやフェイク・ニュースの問題、さらに現在の安倍政権の憲法改正に向けての動向などの諸課題を取り上げる。その際、マイノリティーセンター、YMCA 同盟、早稲田奉仕園、東京戦争を許さないキリスト者の会などとの共催プログラム実現の可能性を探る。

2. 「今日的課題」Ⅱとして、2017年度と2018年度に実施してきた「編集者にその本音を聞く」シリーズを、「ジャーナリストから見た現代日本の状況と課題」に模様替えをして継続する。ジャーナリストのOB、現役のジャーナリストを招いて、キリスト教会館近くのカフェを会場に開催する。

3. 「宗教対話」Ⅰとして、昨年度に引き続き「日本キリスト教史を読む」シリーズを継続する。今年度は「昭和篇(第三世代)」として、昭和期に活躍したキリスト者たちの足跡を追い、この国のキリスト教の歩みを跡づける。なお、このシリーズは2017年度から継続されており、今年度で一応完結する予定。またこの連続講座の参加者に呼びかけて、大正・昭和期に設立された幾つかの教会を訪ねてその歴史を学び、また施設を見学するオプション・ツアーを計画している。

4. 「宗教対話」Ⅱは、昨年に引き続き柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を柏木義円研究会との共催プログラムとして実施する。

5. 聖書を読むシリーズでは、フェミニズムやポスト・コロナル、性的マイノリティーの視点などからの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。

6. 体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。

7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2019年度も各神学校の参画、賛助を得て、第11回プログラムを実施する。また第1回から第10回までの講師の講演を編集し、新教出版社から報告書を出版することを計画している。なお、この神学生交流プログラムの第1回から校長として協力して頂いた関田寛雄氏を囲む元参加者によるリユニオンも計画している。第10回までの参加者約150名(その多くは現在各地の教会に仕える牧師・伝道者として働いている)に呼びかけて、関西セミナーハウスを会場に一泊二日で実施する予定である。なお、11回以降は、校長が交代し新たに神田健次氏(関西学院大学名誉教授)にお願いすることになっている。

お茶のこころと 宗教のこころ	全8回	聖書をいっしょに読みましょう 2019 座長 榎本 栄次 (日本基督教団牧師、関 西セミナーハウス活動センター所長代 行)	①4月8日(月) ②5月13日(月) ③6月3日(月) ④7月1日(月) ⑤9月2日(月) ⑥10月7日(月) ⑦11月11日(月) ⑧12月2日(月)
		茶席、邦楽、美術展示、音楽演奏 関西セミナーハウスと共催	11月23日(土、祝)

価償却引当金の範囲内で優先順位を定め、実行する。

- 6) 財団本部の方針である「財政健全化計画」に対処する。
2. 予算編成作業実施にあたっての留意点
 - 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
 - 2) 人的費用は、職員だけではなく、顧問、嘱託、パートタイマー及び臨時雇用員までの全ての費用を把握し、予算に計上する。やむを得ない欠員補充を行うが、職員、臨時雇用員を含め、要員の増員は行わないこととする。
 - 3) 関西セミナーハウスは、公益目的事業、収益事業別の施設使用計画を作成する。

IV 関西セミナーハウス2019年度事業計画

2019年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針
 - 1) 関西セミナーハウスは、本法人の基本方針に従い、公益事業への貢献、収益事業での成果を求める運営を図る。
 - 2) 課題である組織的運営体制の整備、システム化、業務効率化、専門的業務の支援体制の充実、職員スタッフの育成などを推進する。
 - 3) 関西セミナーハウスは、減価償却費を含めた収支均衡を目指す。
 - 4) 関西セミナーハウスの設備投資は、別途定める長期的な設備投資計画に基づき、実行する。そのために今年度より「大規模改修積立」を開始する。
 - 5) 2019年度は、関西セミナーハウス会計の減

3. 主な数値目標
 - 1) 収入計画 (P&L ベース)
 - 売上高 114,115,000 円
 - 営業利益 3,300,000 円
 - 2) 設備投資計画
 - 当年度予算 10,570,000 円
 - 主な案件
 - ・井戸ポンプ取り換え工事
 - ・スマートフォン検索システム構築
 - ・予約システム関連
 - 3) 宿泊者目標
 - 上半期 4,550 名 (前年度比 113.9%)
 - 下半期 4,050 名 (前年予測比 103.2%)
 - 年間 8,600 名 (前年度予測比 108.6%)
 - 4) 年度期首要員 14 名

収支予算書 (損益計算方式)

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
特定資産運用益	25,520	18,550	6,970	
受取会費	1,250,000	1,500,000	△ 250,000	
事業収益	139,839,708	146,597,869	△ 6,758,161	
受取寄付金	3,400,000	3,600,000	△ 200,000	
雑収益	90,530	127,570	△ 37,040	
経常収益計	144,606,958	151,845,189	△ 7,238,231	
(2) 経常費用				
事業費	136,496,942	144,839,762	△ 8,342,820	
管理費	5,079,918	3,576,500	1,503,418	
経常費用計	141,576,860	148,416,262	△ 6,839,402	
当期経常増減額	3,030,098	3,428,927	△ 398,829	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	3,030,098	3,428,927	△ 398,829	

関東活動センター

●2018年度

「第10回 神学生交流プログラム」

講師：日本基督教団千代田教会牧師

戒能 信生さん

校長：日本基督教団神奈川教区巡回牧師

関田 寛雄さん

2019年3月13日(水)～15日(金)

会場：イエズス会鎌倉黙想の家



3月13～15日、神学生交流プログラムが行われました。教団、教派を超えてそれぞれの神学校から神学生が集まるこの2泊3日の間、プログラムは基本的に神学生たちが主体となって進めていきます。第9回までのスタッフを務めてこられた戒能先生が今年はこちら講師となり、初日の講演ではこれまでの先生の歩みを語られ、2日目には、現代日本のキリスト教の教勢推移など、これから現場に遭わされようとする神学生たちに向け

て現実的なお話を聞かせてくださいました。普段の教会生活や神学校の学びのなかではなかなか体験できないような出会いや新しい発見が多くあったことと思います。それぞれの教会は違いがあり、その違いも尊重し合いながら、それでも私たちは主にあつてひとつに繋がられていること、そして共通の課題を抱えていることを改めて実感させられました。

報告：丹羽真理恵(弓町本郷教会伝道師)

参加者の感想より(一部抜粋)

川久保拓也

(西南学院大学)

プログラムに参加する中で、多くの参加神学生たちとそれぞれの教派や神学校での



課題や特徴を共有することが

できました。私自身、実際に

交流をしていく中で今までの

認識が改められたり、新たな

ことが多くありました。また講

演では各教派での伝道の課題

は共通していることが分かり

ました。教会数、教員数、

献金額、受洗者数は共通して

減少の一端を辿っており、時

代の流れとともに教会は今ま

での伝道を見直す必要を迫ら

れています。そのような状況

いくこと。また、その対話の中でお互いの課題を共有し、協力し合える部分において連携していくこと。同じキリストを告白するものとして、この「対話」と「連帯」に開かれた関係を築いていくことが、これからの伝道のためにそして教会のために最も必要なことなのかもしれないと思わされました。

黒川めぐみ

(東京基督教大学)

戒能先生の2回にわたる講演の第1回では、先生の生い立ちからこれまでのお働きについて教えていただき、第2回では、日本のプロテスタント教会の歴史を宣教の視点から教えていただきました。講演の中で、世俗化しているアメリカの教会に比べ、日本の教会は圧倒的少数派で、社会の秩序とは異なる考えを持っているという点で初代教会に似ている、ということをお話してくださり、この社会においてキリスト者として立てられている使命を全うしていくことの大切さを改めて自覚する時となりました。

本プログラム全体を通して



私が学んだことは、自分と異なる考えを持つ相手を理解しようとする姿勢の大切さと、異なる中でも、私たちの中心にイエス様がいてくださる限り、イエス様において私たちが一致することができる、ということでした。日本のキリスト教会が教派を超えて一つとなり、この社会においてイエス様の働きを行い続けるために、自分に何ができるのか、これからも考え続け、また行動し続けていこうと思われました。改めて、このプログラムに参加させてくださった、見えるところ見えないうちで支えてくださったすべての方々に感謝致します。ありがとうございました。

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度 修学院フオーラム「社会」第6回

「エネルギーを考える」第7回

「地震国日本で原発は安全であり得るか?」
なぜ再生エネルギーに踏み切れないのか?

発題「日本の原発と地震・津波・火山」

京都大学名誉教授 竹本 修三さん

「ドイツのエネルギー転換の思想と実践」

上智大学外国語学部ドイツ語科教授 木村護郎クリストフさん

2019年1月13日(日)〜14日(月、祝)



アカデミー運動は、はなしあいによって対立を越える道を探ることを旨とする。原発問題は、対立の激しい問題の一つである。当活動センターは、福島原発事故の翌年の2012年から毎年、この問題解決の糸口を探る1泊2日の集会を開催してきた。今回はその第7回目である。スリーマイル島の原発事故も、チェルノブイリの原発事故

も、日本では原発を止めようとする世論にならなかつた。それらは遠い国の限られた地方の出来事に過ぎないと片づけられた。日本のフクシマでは原発事故が起きた時も、それは限られた地域の出来事で、被害は間もなく収まると片づけられた。世界的には、原発は高くつく、CO₂の削減にも奇与しない、使用済み核燃料は長年に

亘って環境を汚染し続けると言われ、主だった国ではお荷物になりつつあるのに、日本では未だにこれに依存する政策が続けられている。何故なのかを考えようとして、地球物理学の専門家の竹本修三さんに、地震国日本で原発は安全であり得るかを語って頂いた。

彼によれば、日本は、世界でも有数の地殻活動が活発な地域にあり、世界で起こっている地震のほぼ1/10の地震が日本及びその周辺で発生している。その地殻活動が活発な日本列島に50基あまりの原発を設置したことは、異常なことである。1995年1月17日に発生し、6000名を越える犠牲者を出したM7.3の兵庫県南部地震において、震源のごく近くに設置してあった信頼性の極めて高いレーザ伸縮計も、その前兆的ひずみ変化を全く観測していなかった。それ故に現在の技術ではM7クラスの地震を予知することは全く不可能である。だからこの日本で、原発の安全性を地震に対して保証することは不可能である。

ドイツは地震が無いにも関

わらず、早々と脱原発を決めた。なぜそれが出来たのかを木村護郎クリストフさんに語って頂いた。

彼によれば、1986年のチェルノブイリ原発事故は、ドイツ人にとって大きな衝撃であった。その放射線汚染はドイツにまで及び、原発に依存できないとの思いをドイツ人に与えた。2011年のフクシマの原発事故は、その思いを強め、メルケル首相は、倫理委員会の勧告に従い、直ちに脱原発を政策として打ち出した。

その背景には、ナチス時代に権威に盲従し、暴走を止められなかったことへの反省があった。直接的には、倫理委員会が出した脱原発への勧告が大きな力になった。倫理委員会の役割は、科学的事実や証拠だけでは結論の出せない事態に対して、社会的意思決定によって科学技術をコントロールすることにある。倫理委員会には、教会の代表も参加している。ドイツでは福音主義教会もカトリック教会も、以前から環境問題やエネルギー問題を議論し、対話の場を提供し、政治経済的利害

や技術論でない視点を提供してきた。これが、倫理委員会に大きな影響を与えた。

これらの発題に続き、木原壮林氏が、原発は地震が無くても、人の手に負えない危険な設備であることを、例を挙げて語り、山本茂氏が、使用済み核燃料から出る核廃棄物と余剰プルトニウムの処理・処分は行き詰まらざるを得ず、これ以上核廃棄物を増やさないことが必要であると述べた。

参加者は20名程度で多くなかったが、第1回から続けて参加してきた人も多く、原発問題を複眼的に、広い視点から考えられるようになってきた。

全体を通して、木村さんが、ドイツにはホロコーストというとんでもない過ちを犯してしてしまったという共通の認識が生きているのに対し、日本にはそうした共通の認識が欠けており、さらに、ドイツでは過ちの体験を若い世代に継承させていく努力を怠らないのに対し、日本ではそうした努力が希薄であると言われたことが印象的であった。

2018年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名 2018年4月1日～2019年3月31日(順不同・敬称略)
ご支援に感謝申し上げます。

Table with 4 columns of names and organizations. Includes categories like 財団本部, 賛助会費, and 寄付金. Lists names such as 石橋 光明, 伊藤 仁子, 大野 朝男, etc.

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話 I**
「日本キリスト教史を読む」Ⅲ
(昭和篇全 7 回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第 1 回「この国の讃美歌を創った由木康の生涯と信仰」

日時：5月9日(木)14:00~16:00

第 2 回「赤岩栄 そのキリスト教批判と闘いの生涯」

日時：6月13日(木)14:00~16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：1 回 500 円

■**2019年度聖書を読む講座**
新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第 2 期)(全 10 回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2019年4月~2020年2月(8月休会)第2火曜18:30~20:00

②5月14日、③6月11日

会場：早稲田奉仕園スコットホール 222

参加費：1,200 円/学生 500 円

共催：早稲田奉仕園

■**2019年度 研究会**

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

森口明洋、館長、4 月 1 日付で就任しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
代表理事 小久保 正

本部事務局
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

「さらに豊かな礼拝のために～言葉を届けるトレーニング」(全 10 回)

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会担任教師)

日時：2019年5月~2020年3月(8月休会)

第3火曜18:00~20:00

①5月21日②6月18日

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会

参加費：1 回 1,200 円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：2019年5月12日、6月9日

日曜9:00~15:00 受付

於：関西セミナーハウス

年会費：4,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2019年度お茶のこころと宗教のこころ**
「聖書をいっしょに読みましょう」(全 8 回)

座長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：2019年4月~12月(8月除く)

第1または第2月曜

13:30~16:30

②5月13日、③6月3日

会場：関西セミナーハウス

参加費：1 回 1,500 円 学生 500 円 (抹茶含む)

定員：20 名

■**2019年度開発教育セミナー**

第 1 回「開発教育入門セミナー」

日時：2019年6月23日(日) 10:00~16:30

会場：京都市国際交流会館

参加費：1,000 円

共催：京都市国際交流協会

■**2019年度修学院フォーラム「福祉」**

第 1 回「映画上映『さとにきたらええやん』とはなしあい~こども・若者の『居場所』って何?」

講師：荘保 共子さん ((特活) こどもの里 理事長)

日時：2019年6月29日(土) 13:30~17:30

共催：京都 Y W C A

会場：日本基督教団室町教会

参加費：1,500 円、学生 500 円(茶菓つき)

宿泊研修施設

関西セミナーハウス <修学院きらら山荘>

~京都比叡山麓 四季折々の自然に恵まれた、静かな環境~

<教会パック ご案内> —12 名様より—

修養会などにご利用ください。本年 9 月末ご利用分まで、
お一人 9,000 円~ (1 泊 3 食、税込、京都市宿泊税 200 円別途)。

ウェブ申込もできます お問合せ Tel 075-711-2115(代)

賛助会費・寄付金報告

2019 年 2 月 1 日~ 3 月 31 日

(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

大鹿 康廣 3,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

日本基督教団経堂緑丘教会 10,000

日本聖書神学校学生自治会 3,000

吉見 崇一 1,000

在日本韓国 Y M C A 10,000

神学生交流プログラム寄付金

横野 朝彦 10,000

上林 順一郎 10,000

関田 寛雄 60,000

日本基督教団早稲田教会 50,000

戒能 信生 130,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

平井美枝子 3,000

南中会 3,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

柳井 一朗 5,000

森口 克洋 3,000

柳井 一朗 10,000

北垣 宗治・景子 5,000

島田 誠一 5,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

日本基督教団世光教会 50,000

武山 泰子 10,000

日本基督教団平安教会 5,000

日本基督教団西が丘教会 6,000

日本基督教団倉敷教会 5,000

榎本 栄次 20,000

網野 俊賢 10,000

金山 顕子 11,200

村上 みか 2,760

日本基督教団京都教会 5,000

日本基督教団宇治教会 3,000

特定非営利活動法人開発教育協会 10,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。